

公共交通旅客施設の
バリアフリー度評価
実施マニュアル

2001年度版

交通エコロジー・モビリティ財団

0 公共交通旅客施設のバリアフリー度 評価マニュアル

便宜上、鉄道駅での評価を想定して作成されています。

【評価にあたっての留意事項】

鉄道駅を想定したバリアフリー度評価にあたっては、以下の点に留意して下さい。

事業者ごとに評価シートを作成します

- ・ 鉄道駅のバリアフリー度評価の結果は、駅単位ではなく事業路線ごとにまとめますので、複数の路線が乗り入れている駅では各事業者1セットずつの評価シートを作成して下さい。

移動・案内情報・施設設備の3種類の評価シートを作成します

- ・ 鉄道駅のバリアフリー度評価は、移動のしやすさ、案内情報のわかりやすさ、施設設備の使いやすさの3つの視点で行いますので、各駅ごとに3種類の評価シートを作成して下さい。

高齢者や障害者の方と一緒に調査します

- ・ 鉄道駅の現地調査を行う際には、可能な限り様々な利用者の参加を得て行って下さい。
- ・ 高齢者や障害者の方が同行できない場合は、調査員だけで調査をしますが、調査の後で出来る限り意見を伺う機会を設けて下さい。

現地調査員の構成の考え方

高齢者（歩行、視覚、聴覚などに制約を有している高齢者1名以上）

車いす使用者（手動・電動で比較的独りで駅を利用する機会の多い人各1名以上）

視覚障害者（全盲・弱視で比較的独りで駅を利用する機会の多い人各1名以上）

聴覚障害者（言語によるコミュニケーションに制約を有する人1名以上）

構内図や図面をもとに効率的な調査ルートをあらかじめ決めます

- ・ 鉄道駅の現地調査を行うにあたっては、あらかじめ構内図や図面などをもとに駅全体の空間構成や動線、諸設備の位置などを確認し、可能な限り調査での移動距離が効率的になるようにルートを設定して下さい。

利用者の立場からの客観的に調査します

- ・ 必要に応じて駅係員への問い合わせを行うことは重要ですが、あくまでも利用者の立場からの客観的な調査を行うように心がけて下さい。

基本的には該当するか、しないかの2者択一方式です

- ・ 個別のケースで評価がわかることが予想されますが、基本的には該当するか、しないかの2者択一で判断して下さい。
- ・ 評価が別れる、判断ができないなどの場合には、より良い方の評価とし、判断が難しい点を特記で記して下さい。

【調査の準備】

調査にあたっては以下のものを用意して下さい。

チェックシートは多めに持参して下さい

- ・チェックシート、特に移動のしやすさに関するチェックシートは多めに持参し、ルートを細かくチェックできるように準備して下さい。

本マニュアルは調査に参加する人すべてが事前に目をとおして下さい

- ・鉄道駅のバリアフリー度評価は、移動のしやすさ、案内情報のわかりやすさ、施設設備の使いやすさの3つの視点で行いますので、各駅ごとに3種類の評価シートを作成して下さい。

以下のものを準備して下さい

- ・鉄道駅の現地調査を行う際には、以下のものを準備して下さい。

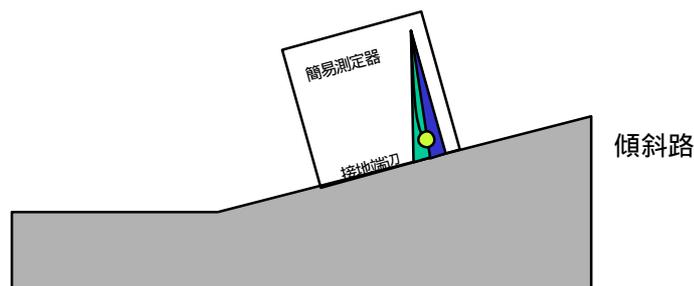
200cm程度の巻き尺

- ・基本的に、寸法は体のサイズを使って概略を計測しますので、巻き尺は補足的に使用します。
- ・幅120cm：両手を広げて手首程度の距離
- ・高さ75cm：平均的な大人の腰骨のあたり
- ・高さ110cm：平均的な大人の肋骨の下あたり
- ・広さ150cmの円：両手を広げて回転できる大きさ
- ・離れ30cm：自分の靴のサイズを参考

これら以外の寸法について目安が不明の場合は巻き尺を使用します。

スロープ勾配簡易測定器

- ・傾斜路の勾配を図る時に使います。添付の簡易測定器を印刷し、凧糸と五円玉を用いて説明に従い完成させてください。
- ・接地端辺をスロープの路面にあて、凧糸が判定領域のどの位置にあるか読み取ります。
- ・緑色、青色の色のついた領域に凧糸が位置しているときは、ほぼ基準を満たしています。



移動のしやすさ評価マニュアル

【移動経路の評価手順】

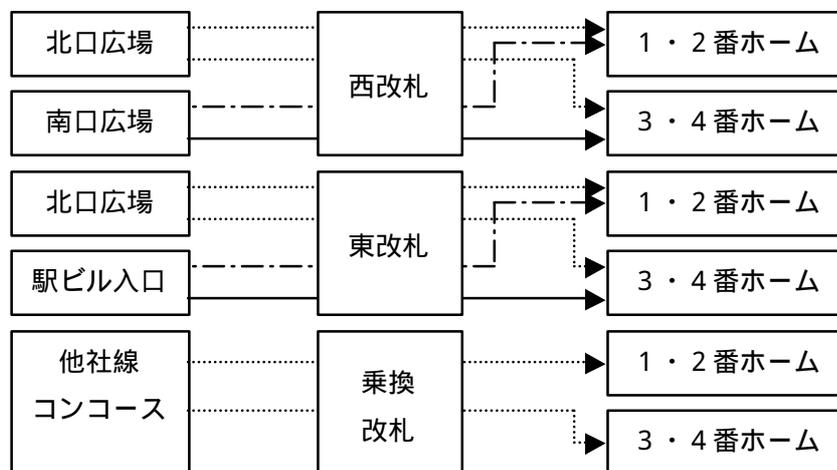
移動経路を評価するにあたっては、以下の手順を進めます。

駅構内図や図面による出入口、改札、ホーム、乗換経路の位置確認

- ・移動経路を評価するにあたっては、まず駅の構内図や図面によって出入口、改札、ホームの位置を確認します。
- ・ここでいう出入口とは道路、駅前広場、駅ビルなどの境界部分を言います。
- ・2階にある自由通路は鉄道施設ではない場合が多いですが、バリアフリー度評価では自由通路と駅前広場の接点を出入口とします。
- ・地下駅については、地上の出入口や地下街との境界を出入口とします。

調査ルートの設定

- ・次にすべての出入口、改札、ホームを結ぶ経路を設定します。
- ・経路の設定にあたっては、改札を中心に考え、その改札につながるすべての出入口、その改札から移動できるすべてのホームを調査ルートとします。
- ・乗換改札がある場合は、他社線のコンコース等から乗換コンコースを経由して各ホームに至る経路も調査対象ルートとします。



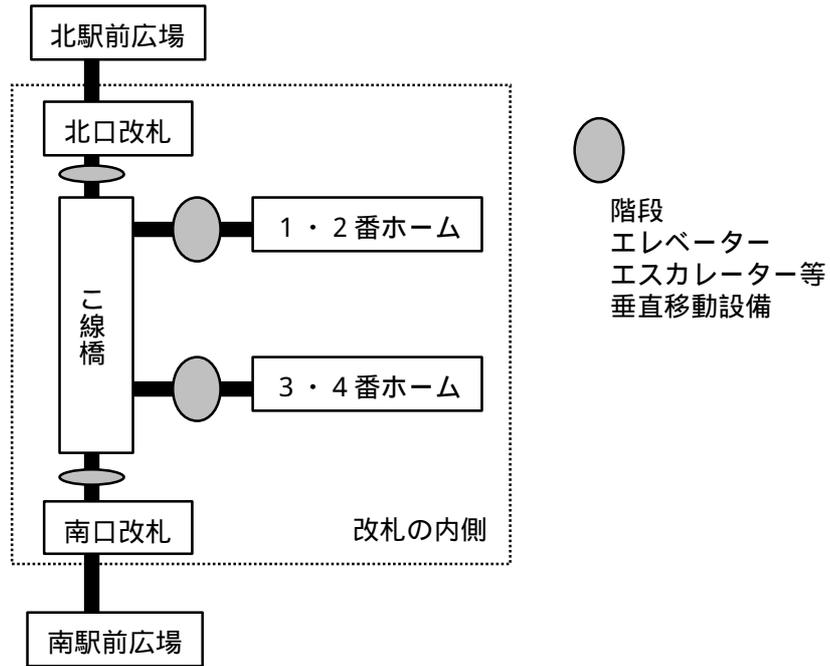
現地調査による調査票の記入

- ・出入口、改札、ホームの組み合わせを記入し、問1、問2、問3から各ルートごとの評価を記入します。
- ・原則としてすべての調査経路について記入しますが、複数のホームへの経路が同一条件である場合などは、「1～6番線ホーム」など簡略化して記入することも可能です。
- ・チェックにあたっては、数字の若い方の項目から該当の有無をチェックし、複数該当する場合は若い方の数字を記入します。

【移動経路設定の例】

例 1 : 2 方向に出入口・改札がある地上駅

地方都市のターミナルとなる JR 駅などに多いタイプ



< 調査ルート >

上記駅の場合の調査ルートは以下の 4 種類となります。

ルート 1 : 北口駅前広場 北口改札 こ線橋 1・2番ホーム

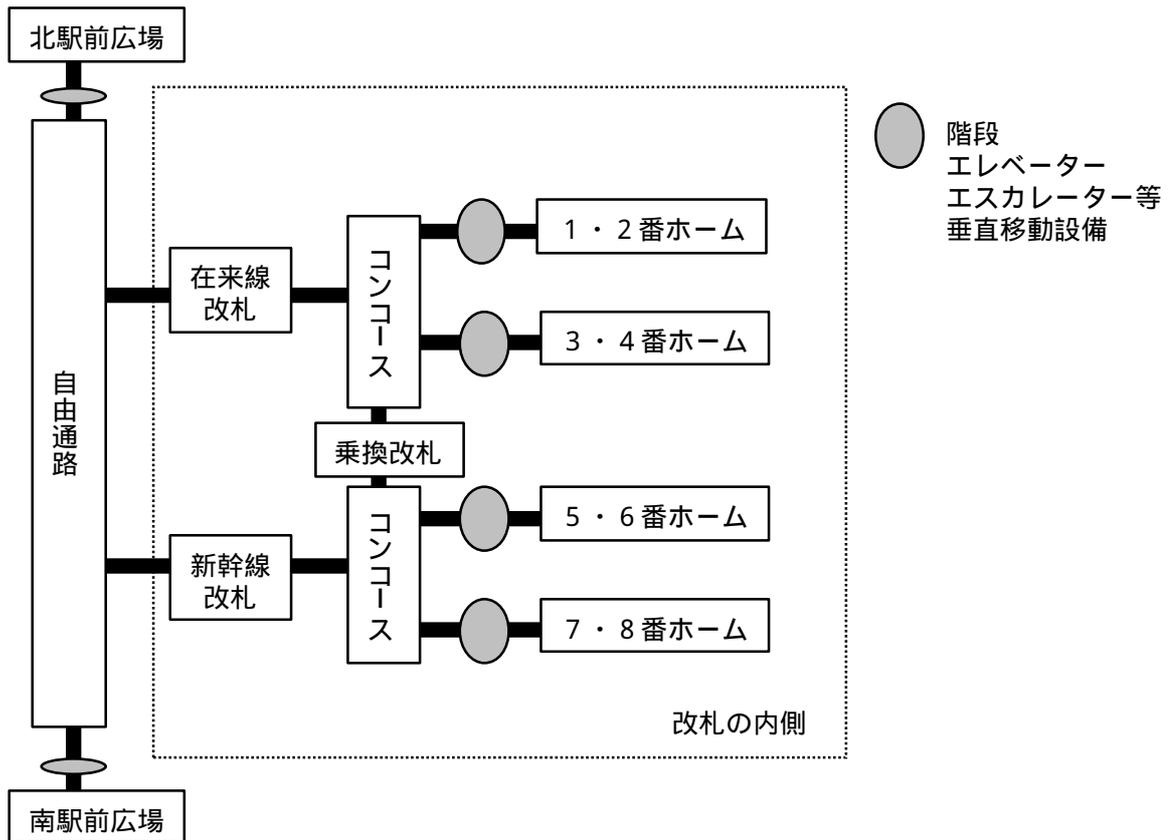
ルート 2 : 北口駅前広場 北口改札 こ線橋 3・4番ホーム

ルート 3 : 南口駅前広場 北口改札 こ線橋 1・2番ホーム

ルート 4 : 南口駅前広場 北口改札 こ線橋 3・4番ホーム

例 2 : 自由通路・乗換改札がある橋状駅

地方都市のターミナルで新幹線駅などに多いタイプ



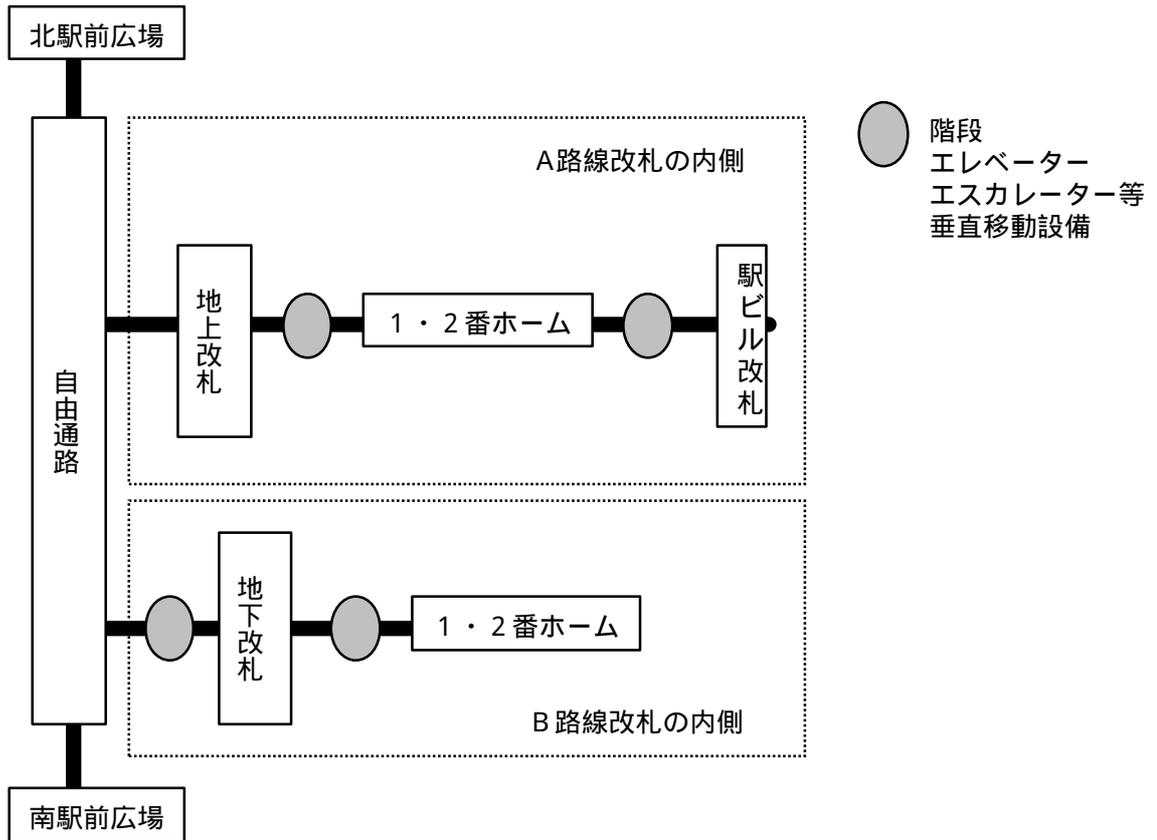
< 調査ルート >

上記駅の場合の調査ルートは以下の9種類となります。

- | | | | | | |
|---------|----------|------|----------|-------|---------|
| ルート 1 : | 北口駅前広場 | 自由通路 | 在来線改札 | コンコース | 1・2番ホーム |
| ルート 2 : | 北口駅前広場 | 自由通路 | 在来線改札 | コンコース | 3・4番ホーム |
| ルート 3 : | 南口駅前広場 | 自由通路 | 在来線改札 | コンコース | 1・2番ホーム |
| ルート 4 : | 南口駅前広場 | 自由通路 | 在来線改札 | コンコース | 3・4番ホーム |
| ルート 5 : | 北口駅前広場 | 自由通路 | 新幹線改札 | コンコース | 5・6番ホーム |
| ルート 6 : | 北口駅前広場 | 自由通路 | 新幹線改札 | コンコース | 7・8番ホーム |
| ルート 7 : | 南口駅前広場 | 自由通路 | 新幹線改札 | コンコース | 5・6番ホーム |
| ルート 8 : | 南口駅前広場 | 自由通路 | 新幹線改札 | コンコース | 7・8番ホーム |
| ルート 9 : | 在来線コンコース | | 新幹線コンコース | | |

例3：自由通路・駅ビル出口・地下への乗換がある高架駅

大都市圏の副都心ターミナルなどに多いタイプ



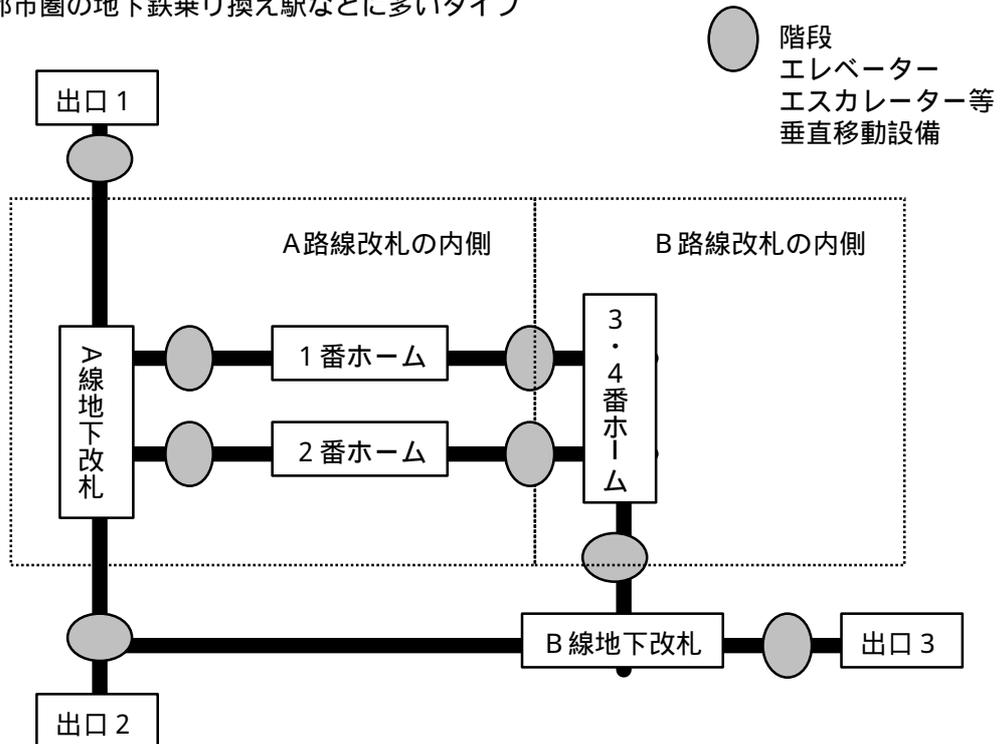
< 調査ルート >

上記駅の場合の調査ルートは以下の4種類となります。

- ルート1：北口駅前広場 自由通路 A線地上改札 A線1・2番ホーム
- ルート2：南口駅前広場 自由通路 A線地上改札 A線1・2番ホーム
- ルート3：北口駅前広場 自由通路 B線地上改札 B線1・2番ホーム
- ルート4：南口駅前広場 自由通路 B線地上改札 B線1・2番ホーム

例4：1ラッチ島式ホームの地下駅と2ラッチ相対ホームの地下駅

大都市圏の地下鉄乗り換え駅などに多いタイプ



< 調査ルート >

上記駅の場合の調査ルートは以下の6種類となります。

- ルート1：出口1 A線改札 1番ホーム
- ルート2：出口2 A線改札 2番ホーム
- ルート3：出口2 B線改札 3・4番ホーム
- ルート4：出口3 B線改札 3・4番ホーム
- ルート5：1番ホーム 3・4番ホーム
- ルート6：2番ホーム 3・4番ホーム